令和5年度授業改善プラン

（取り組み内容）　・毎学期の終わり、自分の担当（各学年ごとに項目だてて）の授業に関して作成する。
・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名（数学科）　教科主任名　谷口　早苗

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。＜〇成果　▲課題＞

観点	前半～9月			後半～1月			次年度に向けて
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・プランの1次評価）	1次評価後の具体的な改善策	まとめ
知識・技能	1年	基本的な計算が身に付いている生徒と身に付いていない生徒の差が広がってきている。身に付いていない生徒に関しては、小学校の計算方法が身に付いていない。	夏休みに計算が苦手な生徒を対象に、補充教室を行い、計算の反復練習を行う。また、授業中も机間支援を個別に行う。	1年			
	2年	〇1学期の成績ではA評価が46%であり、計算などの基本的な内容が身についている生徒が約半数いる。 ▲全く身に付いていない生徒に関しては、1年生の正負の数から復習する必要がある。	夏休みに計算が苦手な生徒を対象に、補充教室を行い、計算の反復練習を行う。また、授業中も机間支援を個別に行う。	2年			
	3年	〇展開や因数分解の計算が身に付いた。	・2学期でも2次方程式で活用するので、反復を促す。	3年			
思考・判断・表現	1年	出題形式を少し変えるだけで、分からなくなってしまう生徒が多い。根本的な意味が理解できていないので、応用して考えることができない。	計算方法を教えるだけでなく、なぜそうなるのかを問うことで、根本的な意味を理解させる。また、教え合う機会を多く設けることで、自分自身の考えを整理させる。	1年			
	2年	〇1学期の成績ではA評価が14%であったが、授業中でのお互いに説明する場面では積極的に取り組んでいた。 ▲どのように活用したらよいのかわからない生徒が多い。	単元の中でも1時間は活用する内容の授業を取り扱い、どうしたらよいか、なぜそうなるかなどを生徒の対話から深めさせるようにする。	2年			
	3年	▲平方根の概念を理解するのに苦労する生徒が多い。	・夏季補充教室を実施し、平方根の計算を反復させた。	3年			
主体的に学習に取り組む態度	1年	授業中は、積極的に発言をするなど、意欲的な生徒が多いが、家庭学習が定着しておらず、提出物に対する取り組みが不十分である。	未提出者には、個別に声をかける。必要に応じて補習を行い、共に課題に取り組み、主体的に学習に取り組む態度を育てる。	1年			
	2年	〇1学期の成績ではA評価が37%であったが、授業や提出物など真面目に取り組む生徒が多い。 ▲単元振り返りシートを取り組んでいるが、自分の学習状況を調整する力がもう一つである。	振り返りは、うまくいくためにはどうしたらよいか、どうやったらうまくいったかなどの工夫や試行錯誤をすることを声かけや発問を工夫し指導する。	2年			
	3年	〇自ら問題集を反復して学習するなど工夫が見られた。	・習熟度別にあった問題提供を行い、各コースの情報を共有する。	3年			